

# 茨城県ひたちなか市立外野小学校 (学校長 軍司 秀幸)

実施日	平成19年12月4日(火)	時間	午前9時30分～午後12時
実施場所	音楽室、視聴覚室	対象/人数	6年生90名
担当教諭	照沼 幸子	ファシリテーター	-
講師	浅子 竜一(青年海外協力隊 OB) 富久尾 歩(青年海外協力隊 OG)		

## 活動内容

総合的な学習の時間「地球人へのパスポート」のタイトルのもと活動計画をたて、海外で活躍した経験のある人のお話を伺う活動を行った

青年海外協力隊についての話

ジンバブエの紹介(国土, 自然, 人口, 産業, 文化, 働く子どもたち, 思いやりのある挨拶) / 電気を通す活動と自分の思い

ボリビアの紹介(自然, 産業, 国旗の由来, 日本からの移住, 稲作, 日本の米との違い, 家族のつながり)

## 児童の感想

・学校に行きたくても行けない子たちが多いことを知り, わたしたちは幸せだと思った。

・ボリビアやジンバブエの人たちは, 豊かではないけれどもがんばっていることに感動した。

・子どもが働いたり, 通学に1時間もかかっている。恵まれた暮らしをしているわたしたちは, もっと頑張らなくてはならないと思った。

・ボリビアと日本の米が違うことに驚いた。また, 作り方も違うが, 日本の米作りの方法がボリビアでも行われるようになってきたことを聞いて, 富久尾さんたちの活動が突ってきたのだなと嬉しくなった。

・ボリビアでは, 家族みんなで林を切り開いて畑を作ったりするから, 日本より家族の絆が強いと思う。

・ジンバブエの相手を思いやる優しい朝の挨拶に感動した。

・「日本のみんなは電気を使っているのに, 使えない人がいるのは不公平だ。」という浅子さんの言葉が心に残った。

・浅子さんは, 1つの電球をつけるのに2年もかかったという。困難に負けずに活動した思いの強さが伝わってきた。

・発展途上国の人たちのために頑張ってきたお二人が輝いて見えた。わたしも誰かの役に立つ人になりたい。

## 先生の感想

・「日本のみんなは電気を使っているのに, 使え

ない人がいるのは不公平だ。」という浅子さん, 「食料生産の大切さに気付き, 伝えたかった。」という富久尾さん。お二人の強い思いが伝わるお話だった。「夢に向かって頑張ることが大事。」「現地の人々の明るさ, 家族の絆の強さに感動。」など, 子どもたちの心に残るメッセージをたくさんいただいた。また, 子どもたちにとって, 全く未知の国であったジンバブエとボリビアという国について, 少しでも異文化理解が図られ, 自分たちの生活を振り返れるよい機会になったと思う。

## 成果と課題

・子どもたちにとってなじみの薄いボリビアとジンバブエという2つの国について, 事前調べを行ったが, 正直なところよく分からないまま当日に臨んだ。しかし当日は, 書物等にはない魅力的な写真映像とお話で, 2つの国を身近に感じる事ができた。子どもたちは, お二人の活動の様子を知ること, 文化の違いを受け入れ, 理解して, 他の国と向かい合っていく大切さを学んだと思われる。

・輝く人を目指して活動していた子どもたちにとって, 青年海外協力隊経験者のお話を聞いたことは, 自分のためだけでなく, 人のために, 発展途上国のために頑張るという生き方を示唆していただくことができた。

・この経験を無駄にしないように, 自分を見つめ直す取り組みを十分に行っていきたい。

